

大会名称: 第61回国民体育大会(のじぎく兵庫国体)

バスケットボール競技

開催場所: 神戸市立中央体育館 Hコート

試合区分: No. 421 少年女子 2回戦

期 日: 2006(H18)年10月2日(月)

主審: 大野 健男

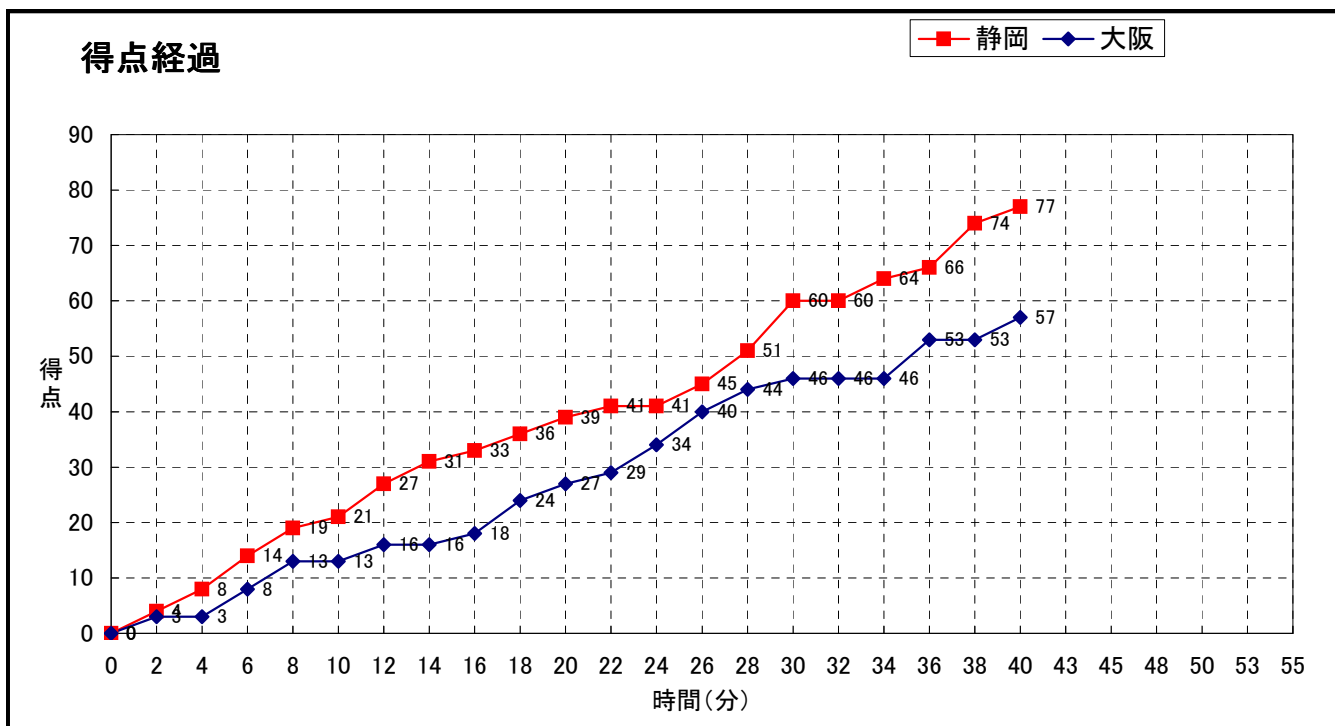
開始時間: 11:45

副審: 石井 郁樹

終了時間: 13:10

静岡 (東海)						大阪 (近畿)									
○ 77						● 57									
No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F
4	*	田中 真樹	29	0	12	5	2	4	*	上蔀 麻衣	19	2	6	1	2
5	*	川崎 若奈	6	1	1	1	1	5	*	高山 秋奈	14	4	1	0	3
6		菊地 有	-	-	-	-	-	6	*	広倉 千夏	2	0	0	2	4
7		本間 香葉子	2	0	1	0	1	7		瀬戸 あゆみ	0	0	0	0	0
8		栢沼 由佳	0	0	0	0	0	8		堀内 聡美	0	0	0	0	1
9		楠 京子	-	-	-	-	-	9		井田 真由美	0	0	0	0	1
10	*	大内 知世	14	0	7	0	3	10		根田 有莉奈	6	0	3	0	2
11	*	徐 ウエイヤオ	21	1	8	2	1	11		近藤 由美	0	0	0	0	0
12		小池 ひかる	-	-	-	-	-	12		小山 知郷	-	-	-	-	-
13		佐藤 美鈴	-	-	-	-	-	13		横田 恵子	-	-	-	-	-
14	*	風間 緑	5	1	1	0	3	14	*	藪田 早紀	9	1	3	0	1
15		西野 いずみ	-	-	-	-	-	15	*	石井 明日美	7	0	2	3	3
コーチ		小前 宏史						コーチ		三差 政利					
合計			77	3	30	8	11	合計			57	7	15	6	17

S: スターター PTS: ポイント 3P: 3ポイントシュート 2P: 2ポイントシュート FT: フリースロー F: ファール



### ゲームレポート

第1ピリオド、両チームともオールコートマンツーマンディフェンスでスタート。静岡は、高さのある#11徐が攻守に活躍し、大阪に主導権を渡さない。静岡は#11徐がディフェンスリバウンドで大阪の攻撃を断ち切り、オフェンスでは#10大内の個人技が光る得点でリードを広げる。大阪は#5高山などによる3Pシュートで対抗するが、外からの単発シュートとなり、静岡が8点をリードして第1ピリオド終了。

第2ピリオド、大阪はディフェンスを頑張り、スティールするが得点できず、逆に速攻に持ちこまれてリードを広げられ、苦しい展開となる。残り7分、大阪はタイムアウトを取り、ディフェンスを2-3ハーフコートゾーンに変え、静岡に傾いた流れを戻そうとするが、静岡もタイムアウトを取り、#4田中のシュートで得点し、リードを広げる。その後、大阪は#4上蔀が得点するが、一方でレイアップシュートを落とすなどのミスもあり、39-27と静岡リードで第2ピリオドを終了した。

第3ピリオド、静岡のオフェンスが単調となったことから大阪がペースをつかむ。大阪#10根田が速攻などで連続得点し、残り5分、大阪#14藪田のレイアップシュートで41-36と5点差になる。この後は静岡#5川崎の3ポイントシュート、大阪#4上蔀のシュートなどで一進一退の展開となる。残り2分で大阪#10根田がジャンプシュートを決め、47-44といよいよ3点差。ここから静岡は#11徐が再びリバウンドと攻撃に活躍して得点を重ね、結局静岡が60-46とリードしたまま第3ピリオドを終了した。

第4ピリオド、大阪はシュートミスが目立ち苦しい立ち上がり。残り5分で大阪がタイムアウトをとった直後、大阪#14藪田がレイアップを決めリズムを掴むかに見えたが、静岡はこの後のディフェンスを頑張り、大阪に連続得点を許さない。大阪はディフェンスを終始よく頑張るがターンオーバーを多く誘い、更に終盤には5人全員を変えて激しくディフェンスをするなどの粘りを見せたが、結局リバウンドを制した静岡が77-57で勝利した。

担当者: 前川 裕史(兵庫県バスケットボール協会)

(財)日本体育協会・(財)日本バスケットボール協会